（施策評価表59）

【施策番号Ⅳ－12－①－3】

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦　略	【戦略12】悠久の宝の継承 ～熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます～ ①くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承	主な施策	◆県民と共有する ～地域の宝の共有と将来へわたって守り・育む仕組みづくり～

1 取組内容	2 主な事業（上段：H25事業 下段：H24事業）	担当課	H25予算（千円） H24決算（千円）	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
・ 松橋収蔵庫に所蔵されている本県の自然、文化、歴史、民俗に関する資料を身近な地域で見て触れ合うことの出来るフィールドミュージアムを、県内各地域で展開します。	博物館関係資料活用・学習支援事業	文化企画課	13,316 12,870	・松橋収蔵庫を拠点施設として、収集資料を活用した松橋収蔵庫での展示、本県の自然や文化について学ぶ各種講座、学校等での移動展示や移動体験教室及び自然観察会等の学習支援事業を実施したことにより、参加者数が増加し、H24年度の目標(12,500人)を達成した。 ・松橋収蔵庫保存環境改善調査を実施したことにより、資料収蔵環境における改善すべき点が判明した。	・保存環境改善調査の結果を受けて改修整備を実施することにより、資料の保存環境の改善と収蔵スペースの増加を達成する。また、収蔵環境を改善することにより、収蔵資料を活用したフィールドミュージアム事業の充実につなげる。 ・松橋収蔵庫サテライト事業に取り組むことにより、H26年秋にリニューアルオープン予定の熊本市立熊本博物館内に松橋収蔵庫の資料を活用した展示を行うための設計と展示制作を進める。また、この事業を通じて、H26年度以降の松橋収蔵庫事業への参加者数の増加にもつなげる。	・事業参加者数の目標値の達成に向け、収集資料を活用した松橋収蔵庫での企画展示、県民交流館パレアアクシア等での移動展示、本県の自然や文化について学ぶ各種講座、学校等への移動体験教室や講師派遣、自然観察会などの学習支援事業を充実させる必要がある。	・県全域を活動のフィールドとしてとらえた県民参加の博物館活動を積極的に展開し、松橋収蔵庫全事業における参加者数をH27年度までに２万人とする（H23年度：１万人）。 ・熊本市立熊本博物館におけるサテライト事業、県民交流館パレアにおける展示など松橋収蔵庫以外での展示の充実を図る。
	博物館関係資料収集等事業	文化企画課	9,362 10,019				
	松橋収蔵庫保存環境改修整備事業	文化企画課	4,415 4,135				
	松橋収蔵庫サテライト事業	文化企画課	6,000 －				
・「くまもと手仕事ごよみ（仮称）」を作成し、本県の「手しごと」を県民に広めることで、その伝統の技や文化、担い手を、将来にわたって守り・育む仕組みづくりに取り組みます。	「くまもと手仕事ごよみ」推進事業	文化企画課	6,407 －	・多岐の分野に亘る「手仕事」に関する情報共有や事業展開について協議を進める庁内連絡会議を開催するとともに、小山薫堂氏を招いて「くまもと手仕事ごよみ」研究会を開催し、今後の事業推進のための意見を得た。 ・国の伝統的工芸品指定を受けている天草陶磁器、小代焼について、意匠開発や展示会開催の費用を補助し、認知度向上や販路拡大に繋がった。 ・山鹿灯籠について、国指定申請のための支援を行い、山鹿市を中心に、申請団体の設立や申請書案の作成が行われた。 ・新たに「くまもと食の名人」（郷土料理の伝承活動を行う人材）を23名認定するとともに、研修会を実施したことで、伝承活動への意識を高めることができた。 ・「くまもと食の名人」を対象に「次世代に伝えたいふるさとのおやつ」をテーマにした研修・交流会等を開催したことで、地域で伝承されているおやつのレシピ（22品）の発掘ができた。 ・物産館等が食の名人を活用して行う県民への郷土料理、地域食材の提供機会創出の取組みを４ヶ所で支援したことで、新商品の開発や食の交流機会の増加につながった。 ・「創造！生きる力」実践発表会の開催により、児童・生徒が伝承する民俗芸能の実践発表を行った結果、教育関係者に伝統文化の素晴らしさ及び次世代へ継承することの必要性を認識させることができた。 ・熊本県高等学校文化連盟との共催の総合文化祭により、発表の場の提供とともに郷土芸能部門を含む各部門の活動を支援したことで、伝統的文化や芸術に対する高校生及び県民の方々の関心が高まった。	・「手仕事」を「こよみ（二十四節気）」と結びつけることで、現代の生活に「手仕事」をとりいれ、県民がより幸福を実感できる生活を実現することを目指す。「くまもと手仕事ごよみ」フェイスブック及びホームページの開設、啓発イベントの実施、テレビ広報・PR広報の実施など多様な事業を展開する。 ・天草陶磁器について、販路開拓等の支援を引き続き行う。 ・小代焼について、伝統工芸館等と連携し、振興計画作成のための支援を行う。 ・山鹿灯籠について、H25年度中の国指定に向けた支援を引き続き行う。 ・「くまモンおやつプロジェクト」の一環として、地域で伝承されているおやつや創作おやつをとりまとめたふるさとおやつレシピブックを作成し、活用する。 ・「くまもと食の名人」が郷土料理を伝承する場として、県民参加のイベントを開催する。 ・学校での伝統的文化活動の継承を奨励するために、発表の機会の提供や実践事例の紹介などに引き続き努める。また、高校生の文化活動についても、活動のさらなる広がりを支援する。	・「くまもと手仕事ごよみ」の継承等を県民運動として展開していくため、効果的な啓発イベントの実施やパブリシティの活用、関係機関との連携を進める必要がある。 ・伝統的工芸品の各産地団体は基盤が弱小であるため、販路拡大等の活動を支援していく必要がある。 ・「くまもと食の名人」について、認定開始から12年が経過し、高齢となった方も多いため、懸念される今後の活動の減少等に対応していく必要がある。 ・郷土料理を一般の方が体験できる場は限られており、それについて集約された情報も不足していることを踏まえて取組みを進めていく必要がある。 ・過疎化や少子化の進展に伴い減少している伝統的な文化活動の担い手を確保していく必要がある。	・「くまもと手仕事ごよみ」を活用し、手仕事に係る情報等が簡単に得られるような仕組みをつくるとともに、手仕事を大切にし、生活に取り込んでいく機運を向上させていく。 ・伝統工芸品の各産地団体の活動支援を継続する。 ・伝統の食文化を広く県民等へ周知し、体験する機会を提供する。 ・発表の機会の提供や実践事例の紹介などにより、児童・生徒による伝統的文化活動の伝承が多く行われるようにする。 ・高校生による文化活動がさらに充実するよう、引き続き発表機会の提供や活動支援を行い、高校生の文化部加入率が31%になるように取り組んでいく。
	ふるさとの食継承・活用推進事業	むらづくり課	5,721 3,357				
	子どもくまもと伝統文化伝承事業	文化課	110 88				
	高等学校芸術文化振興事業	文化課	4,630 4,869				
		主な施策のまとめ		●松橋収蔵庫を拠点施設として、収集資料の展示、各種講座、移動展示や移動体験教室及び自然観察会等の学習支援事業を実施し、H24年度の目標(12,500人)を達成。 ●多岐の分野に亘る「手仕事」に関する情報共有や事業展開について協議を進め、「くまもと手仕事ごよみ」研究会を開催した結果、H25年度の事業化を実現した。	●H26年秋にリニューアルオープン予定の熊本市立熊本博物館内に松橋収蔵庫の資料を活用した展示を行うための設計と展示制作を実施。 ●「くまもと手仕事ごよみ」フェイスブック及びホームページの開設、啓発イベントの実施、テレビ広報・PR広報の実施など多様な事業を展開。	●収集資料を活用した企画展示、県民交流館パレアアクシア等での移動展示、各種講座、移動体験教室や講師派遣、学習支援の充実。 ●効果的な啓発イベントの実施やパブリシティ活動。	●県全域を活動のフィールドとしてとらえた県民参加の博物館活動を展開し、松橋収蔵庫全事業の参加者数をH27年度までに２万人（H23年度：１万人）。 ●「くまもと手仕事ごよみ」を活用し、手仕事に係る情報が簡単に得られる仕組みを構築。